

今までの指導の問題点その2

具体性を欠いた本時の目標例

具体性を欠いた本時の目標を見ることがあります。例えば、以下のような目標です。

- 各段落の要点をとらえ、筆者の主張を要約して書くことができる。
- 観点や注意点をふまえ、段落を簡潔に要約することができる。
- 第1の疑問の課題解決の過程を、文章の構成や展開をとらえ、的確に読み取ることができる。
- 三つの大きなまとまりに小見出しを付けて発表し合うことにより、内容をよりの確に確認することができる。

学習成果の形式化・形骸化

(1) 学習の達成感がない

従来の説明的文章の指導では、文章にこだわるあまり、文章中に閉鎖された学習が循環することが多かったように思います。形式論理の読みや情報の確実な受容・整理などの成果も上がりましたが、学習が絶えず一方向にしか集約されず、形骸化が進み、学習の達成感が空疎になったことは否めません。論理操作は巧みですが、論理的思考が苦手な学習者を育てる結果になってしまったのです。

(2) その原因は何か

読みが要約・要旨の把握を前提として行われるため、獲得された意味が読者の内面に血肉化して結実しなかったのです。絶えず長い表現を短くすること、形式的な論理関係を見出し、抽出することに終始する読みの中では、表現の細部にまで実感を働かせることが十分に行われず、結果として、叙述を全身で受け止める満足感が得られませんでした。

(3) 非常に偏った状態

このような読みでは、文章は上面の意味の集合体で、形式的な意味関係を把握する対象か、要旨として整理される対象でしかありません。そのことに全く意味がないとは言いませんが、そこに低回していると、読みとは、形式的な意味の整理作業であり、また、読みの成果とは、思考の操作によってもたらされるという、非常に偏った状態に陥りかねません。

今までの指導の弱点

- 自分の考えをもって論理的に意見を述べるできない。
- 適切に表現できない。
- 目的に応じた的確な読み取りができない。

これらのことは、国際化が進む社会の中で、特に海外の方と接していくことが日常的に求められることが増えている現在において、改善しなければならないとても重要なことです。

実感を伴った読みを

実感に働きかける読みは、裾野を広げることにつながります。読みの実感を確保した後で行われる要約・要旨の指導では、緊張感も高められ生産性も上がると考えられます。